

# 令和3年度 文京区障害者地域自立支援協議会

## 第1回 就労支援専門部会 要点記録

日時 令和3年8月4日(水)10:00~12:00  
場所 文京区シビックセンター 障害者会館会議室 AB  
出席者 志村健一・瀬川聖美・佐瀬祥子・藤枝洋介・永尾真一・北村洋次郎・松井裕・小泉洋平  
南雲ひとみ・阿部光実・平井芙美・小林美千代・有村秀一・天野亨  
欠席者 石橋綾・中瀬茂由・伊藤博子・加藤たか子  
※下線は今年度からの新規委員

### <会議次第>

#### 1 開会

(1)部会長の互選、副部会長の指名について

#### 2 議事

(1)令和3年度障害者自立支援協議会について

①令和3年度就労支援専門部会検討事項について

②令和3年度障害者地域自立支援協議会スケジュールについて

(2)昨年度話し合われた内容の確認

①令和2年度就労支援専門部会・ワーキングの内容

(3)ハンドブック作成について

①令和3年度第1回ワーキング

②ハンドブックの内容について

③印刷について トヨタグループ

③事例記事作成のスケジュール

### <配布資料>

- ・就労支援専門部会委員名簿……………【資料第1-1号】
- ・文京区障害者地域自立支援協議会要綱……………【資料第1-2号】
- ・令和3年度就労支援専門部会検討事項……………【資料第2-1号】
- ・令和3年度障害者地域自立支援協議会スケジュール……………【資料第2-2号】
- ・令和2年度就労支援専門部会・ワーキングの内容【資料第3-1号】【資料第3-2号】【資料第3-3号】
- ・令和3年度第1回ワーキング……………【資料第4-1号】
- ・ハンドブックの内容について……………【資料第4-2号】
- ・事例記事作成のスケジュール……………【資料第4-3号】

- ・文京区障害者地域自立支援協議会要綱、第 5 条に基づいて部会長の互選と副部会長を指名し、瀬川部会長、佐瀬副部会長に決定。
- ・就労支援専門部会の司会進行を事務局から部会長に交代。
- ・昨年度の振り返りについて事務局より【資料第 3-1号】【資料第 3-2号】【資料第 3-3号】をもとに説明。
- ・印刷スケジュールを共有し期限と条件を設け、各事例記事の作成や社会資源紹介ページで各事業担当者に具体的に書面に起こして考えていただく予定をお伝えした。

## ●ハンドブックの内容について【資料第 4-2 号】事務局より説明および意見交換

### 【議題】

令和3年度の検討事項として、ハンドブックの内容と配慮ある表記の仕方とレイアウトの意見を出し合い、より具体的にしていく。

### 【意見交換】

#### ○視覚障害者の支援学校について

- ・文京区には文京盲学校もあるので、特別支援学校のあたりでお手伝いいただきたい。
- ・学区のない職業学科もあるので、その部分の説明を入れなくてはと思う。
- ・文京区には文京盲学校以外にあと2校盲学校がある。目白台にある筑波大学附属視覚特別支援学校と茗荷谷の視覚障害者あん摩指圧等の先生を養成する学科がある。その辺りも考慮に入れていただきたい。

#### ○ルビや色合いについて

- ・親会でルビがあった方がいいという意見があったが、やみくもに全部に振ること難しいとの部会の意見もあり、そのあたりの意見や、見分けやすい色合いこと、チャートのことその他社会資源等々ご意見いただきたい。
- ・ルビはあった方がいい。知的障害の当事者や保護者の方が説明するときにあった方が伝わりやすい。
- ・就労を考えている学生にはどのくらいの量が適切か。他の障害特性やビジュアルの面からも全部にルビ振ることとは難しいとの意見がある。
  - 当事者が読む部分にはルビがあると良い。ハンドブック使用する場面では大抵は支援者が相談したりする。どの部分かは具体的には今の時点ではお答えできないが、本人が活用する所にはルビがほしい。
- ・例えば、小学 5 年生以降に習う漢字にはルビを振るのはどうだろうか。
  - 知的障害の学生に関しては、基本的にはすべてにルビがあった方が分かりやすい。
- ・ハローワークとしては、ルビは知的障害者の方にとっては振っていただけると理解が進むのでお願いしたいところではある。色合いは専門家にご意見いただきたい。
- ・ルビよりも、大事なのは日本語自体を簡単にすること。難しく書いたものにルビを振っても理解されない。
- ・読みやすい文章はものすごく大事なポイントであると思う。フォントも UD フォントなど読みやすいフォントにしてみ

てはいかがだろうか。

- ・ルビや音声も、内容を簡略化するなど色々と課題やそのための方法などが出てくると思うので、どのページを特に知的障害の方に活用できるようにしてもらいたいと検討していきたい。
- ・例として、フローチャートの部分を当事者やご家族が利用することであれば、そこにルビを入れるなどの対応をする。
- ・親会でルビについて意見が出たが、一方で就労専門部会では精神の方はルビがたくさんあると手に取りにくいなどの意見があった。
- ・どの部分を知的障害のご本人たちが読まれるかは難しいが、小難しい本ではないようにイラストを表紙に入れる等、手に取って頂く工夫などで配慮していただきたい。
- ・知的の学校からは、このようなガイドブックがあることは非常にありがたい。基本的に文章より写真や絵とかをいっぱい使ってあって文章自体も簡単な方が生徒は使いやすい。
- ・情報量が多いためどり着くまでに時間がかかると予想される。当事者、関係機関、事業所別に、ページの端を色別にするなど探しやすい工夫があると良い。

#### ○社会資源確認チャートについて

- ・分かりにくいので色分けをした方がいい。「仕事をしたい人」「悩みがある人」は別の色にして進む方向を分かりやすくした方がいい。
- ・フローチャートについて「はい」「いいえ」の色分けをして表記した方が分かりやすい。矢印に「はい」「いいえ」がすべてに入っていると文字の印象が強すぎる。「はい」は赤、「いいえ」は青などのルールを先に表記して文字を省略出来たら見やすい。
- ・発達障害の方は文章の読み取り能力に問題があると感じている。各事業所ページ(社会資源の紹介ページ)などは読みやすく理解しやすい文章として表記することが大事である。
- ・職業センター⑦が復職支援にできなかったのが少し気になる。例えば、働いていない方のフローチャート「住んでいる地域で相談したい」→「いいえ」の先が障害者就業・生活支援センターのみになっているため、職業センターを加えてもらえたらどうか等。すべてを盛り込むことが難しいかもしれないが検討いただきたい。

#### ○点字版と音声朗読版の作成について

- ・ハンドブック作成の今年度の予算は印刷とデザインが中心で組んで現在進行している。点字版・音声版についてはどのくらいの予算が必要なのか把握できていない。どなたにお願いすればよいか、調整できるかどうかも踏まえて色々と情報収集しながら出来る限り検討したい。
- ・音声版について「心のバリアフリーハンドブック」のノウハウを活用してはどうか。二次元コードで音声読み上げ機能が思ったと思う。作成した区役所と連携して参考にしたらどうだろうか。
- ・全部が点字版だとおそらく費用が掛かってしまうが、二次元コードなどの対応ができれば現実化する可能性が高いと考える。福祉課の委員も本日参加しているので意見をいただきたい。
- ・音声版があれば、全部にルビを振らなくても知的障害の方も理解が出来ると思う。音声を聞けば内容が分かる仕組みがあれば方法を伝えられるため、音声は本当に必要だと思う。ホームページ等で聞けるようにするとか、

二次元コードの方法など検討して是非実現していきたい。

→音声読み上げに対応するのは、そう簡単なことではない。文章だけなら可能だが、フローチャートや社会資源MAP ページに対応するとなると、現在の状態ではほぼ不可能。通常の文章だけなら読み上げは可能であると思うが、やるとするとそれ専用を作り替えなくてはならないという概念で考えていなくてはならないので難しい。

- ・検討のためにも二次元コードにすると文章はどのように表示されるのか、もう少し意見がほしい。
- ・二次元コードについて、特殊なソフトが必要なのだが、詳しくは分からない。
- ・全てのページを読み上げなくてもいいと思う。フローチャートの部分は支援者の方と一緒にしてもらってもいいかと思う。
- ・使いやすいそれぞれのページの特徴に合わせて、その部分をアクセスしていくという判断をワーキングで話し合う必要がある。
- ・二次元コード等にて読み上げるソフトの名前は忘れたが、現在はスマートフォンで全部対応できる可能性がある。(二次元コード読み上げ以外の情報の提示)1 ページに1000文字の領域でしかないという物。図や表、グラフについて工夫して言葉を選び、分かるように読んでくれるサービスがある。点訳の場合にもその辺りを工夫した形で点字にすることが今の技術ではできる。コンピューター等で読み上げるのではなく、それぞれ工夫された形で点字や人が読む音声にした方が情報として正しく伝わると思う。

→事務局と相談が必要。

- ・区は、音声読み上げの実績があるのでその辺りの状況を事務局と共有して、音声読み上げに対応するのであればどういった形で対応していくかを一緒に考えていく。
- ・誰をターゲットにするかによって全く作り方が変わってしまう。だけど、障害は多様なので、視覚・聴覚・色々な障害に100点満点には絶対できない。なので、ターゲットを一応明確にする必要がある。なぜなら、全てに全然足らなくなり使えないものになってしまう。そのようなことになるのは避けたい。

→今回のハンドブックのコンセプトが広く、特定の障害がある方ではなくて多くの障害がある方が活用できるようにというハンドブックになっている。

## ○社会資源の紹介ページのリスト掲載について

- ・同じ累計(事業種別)のなかでA事業所は中身を載せるが、B事業所だけはリストだけ…というのは区としてはあまり望ましくない。目次にまとめていただいているように事例にご協力いただいた事業所は個別に掲載し、社会資源紹介ページはサービスや業態の種別ごとに事業を掲載するもの、リストだけのものと整理していければいいのかと考えている。
- ・現段階のリスト掲載について説明すると、就労定着支援と医療機関の部分になる。
- ・掲載の仕方については、就労定着支援は、就労移行支援や就労継続支援B形事業所と一緒に事業としているのでリスト化している。医療機関は、文京区は数が多くすべてを掲載することは難しいためリスト化している。委員と相談し、就労支援などに取り組んでいる医療機関をピックアップして事例に協力いただいている機関は社会資源紹介ページでも掲載していけたらと考えている。
- ・その他の、目次に記載してある事業所は社会資源の紹介ページの掲載をお願いしたい。
- ・文京区内ではない、障害者就業・生活支援センター(ワーキング・トライ/WEL'S)も社会資源の紹介ページに掲載

載となるか？

→はい、社会資源相関図で掲載されている事業所は紹介される形になる。

・定着支援はリストでこの事業所がおこなっていると分かるようにリストで掲載。生活も基幹相談・地域生活拠点の10月時点で3か所も掲載。医療機関については基本的にリスト形式で、事例を載せていただく小石川メンタルクリニックは別で掲載されるとのこと。

→現段階の資料ではそのように進行している。

## ○事例について

・事例があることが、このハンドブックの魅力であると考え。できれば当事者の方の声が、そのまま伝えることができれば良いと思う。しかし、当事者の声だと分かりにくくなってしまったり、思いが先行してしまったりするなどの表記の仕方について懸念がある。

・当事者の声が聞けることは、すごくいいことだと思う。編集の問題だと思う。分かりやすい日本語ということも合わせて、色々と調整が大変そうではあるが担当に頑張ってもらいたい。

・事例のサンプルについて、ページを一見すると文字が多く字の印象が強い。ページ数を増やしたり、レイアウト工夫して読みやすいフォントに変えたり、強調するところを太字にするなどすると見やすくする必要がある。

・見せ方の工夫が必要。文字ばかりだと見る気がなくなってしまう。

→より良い方法があれば検討したい。

## ■その他

○知的障害の学生によるハローワーク登録会での出来事。登録会后、地域の方から半分クレームのような形で電話にてご意見を伺う機会があった。内容は「私も、発達の診断を受けているのだけでも、こんな手厚い登録会などの支援を受けることはなかった。」要約すると羨ましいということだった。今回の件からもハンドブックの活用できるニーズが地域にあると実感した。

○医療機関の意見としては、医療機関は今までは社会資源としては取り掛かりづらいという風に思われてきたと感じている。今回ハンドブックで地域の皆さんと並べて載せることで選択肢として含まれることが良い機会である。

○文京区の精神障害者家族会が出している「心の健康ガイド」(精神保健福祉マップ)にも社会資源として紹介されているが、医療機関は中々掲載される機会などはないのか。

→距離感が今までであるように思う。

○一番大事なことは、ハンドブック誰に渡すようにするのかを検討しなくてはならない。そのためには、どこに置き、どのように渡すか、手に取って頂くかをしっかり考えていきたい。ハンドブックが置かれる場所は事業所であったり

すると思う。はっきり言って私たち就労移行支援事業所が持っているだけでは効果を発揮しない。

例をあげると、A型事業所に通う利用者の方は、すでに就労したいから来るのであって、ある程度の情報をもっていらっしゃる。しかし、そのような考えにまで達していない方は事業所とつながっていない。その方の手に渡るように工夫をしたりする必要があると思うので、そこのところをもっと深く検討出来たらよい。

→文京区にいろんな事業者がある。おそらく遠方からも利用される方がいらっしゃると思う。そのことから、配布先をどれくらいまで広げるかとか、以前話し合ったかもしれないが、印刷は何枚何冊するのかなども検討も必要。

○医療機関のリワークデイケアの表現方法について、デイケアでリワークを全ての医療機関がしているわけではない中で表現の仕方について意見をいただきたい。

・リワークデイケアという表現だと文京区内ではしぼられた機関のみになってしまう。

・医療機関にかかる時のニーズは、現在就労中で自分の症状があって、その会社のために相談したい場合や日常生活から整えていくニーズなどもある。そこからさらに、リワークデイケアという形になると思う。その辺を分かりやすく表現できればと考えているのだが、どの様にすれば伝わるか皆さんのご意見もいただきたい。

→中々この場では難しいと思うので、ワーキングの課題となる。

○精神障害の方について、事例やフローチャートがあることで色々な目的の支援にご自身の力でたどり着けるところが良いと思った。

#### ●次回について

次回は11月下旬～12月下旬に開催予定。詳細は別途連絡。